タウンミーティング議事録

1 日時

令和3年12月19日（日）午前10時00分から11時30分まで

2 場所

森の図書館 視聴覚室

3 参加者

(1) 特別職等

井崎市長、石原副市長、田中教育長

(2) 部局長等

須郷総合政策部長、伊藤市民生活部長、早川健康福祉部長、
大島環境部長、秋元子ども家庭部長、石野まちづくり推進部長、
矢幡土木部長、菊池教育総務部長、前川学校教育部長、
松山指導課長

(3) 事務局（秘書広報課）

若林課長、稲村課長補佐、梅木主任主事、小林主事、斉藤主事、
金子会計年度任用職員、須賀主事（記）

4 来場者数

30名

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 市民

八木北小学校に通っています。

12月6日に修学旅行に行ってきました。

柏市、松戸市は宿泊でしたが、流山市は日帰りの修学旅行でした。

学校の先生に、なぜ日帰りだったのか質問したところ、市の方針だと言われました。

なぜ日帰りとなったのか教えてください。

A 市（学校教育部長）

こういった場でお話をするには勇気がいることだと思います。ご質問ありがとうございます。

修学旅行については、市で統一して宿泊をやめましょうと言っているわけではなく、このあと実施予定の中学校の中には、宿泊を予定している学校もあります。

現在、コロナがだいぶ収まってきたとはいえ、感染リスクや児童生徒、地域の意見、学校の人数などの様々な状況を鑑み、最終的には校長先生が総合的に判断して宿泊か日帰りかを決めています。

八木北小学校だと日光に行ってきたのかな？

（市民頷く）

修学旅行は一生に一回のことだから、本当は宿泊して、修学旅行を楽しんでほしいなという気持ちは学校も教育委員会も同じです。だけど、こういった感染症予防ということ踏まえた判断ということで理解してもらえると嬉しいです。

本当に早くみんなが安心して宿泊できるように世の中になってもらえることを祈っています。

発言本当にありがとうございました。

Q 市民

車いすで16年生活しています。

公共施設に向かう際に、バスや電車を利用していますが、バス停には屋根がなく、傘をさすこともできず困っています。

千葉市のバス停には屋根がついており、小降りの雨が降ってきた時には雨宿りもできます。

それともう一点が歩道の件です。

初石から江戸川台の歩道は凸凹がひどく、1センチの段差でも転びそうになってしまいますので、あのあたりの整備もきちんとしていただければと思います。

植栽についても考えてやっていただいていると思うのですが、幹がどんどん太くなっていくと、根上りで歩道が凸凹になることがあり、雨の日は水たまりができ、ベビーカーの人や杖を突く老人が大変になることもあります。

植木で心も豊かになります、住んでいる人が生活しやすい市になってもらうとありがたいと思います。

A 市（まちづくり推進部長）

バス停の屋根のことをシェルターと言います。市内でも駅前では設置しているところもありますが、ほとんどのバス停には設置されていません。

基本的に、民間の事業者が運営する路線バスでは、民間事業者が道路を占用して設置するのですが、設置する場所の問題もあり、進んでおりません。

植栽の根上りについては、削るなどの対応をさせていただきますので、ご不便な場所を後ほど詳しくお聞かせください。

また、歩道については、最近の規格では比較的広い歩道が整備されていますが、昔の規格は狭く、段差もあつたりと不便なところもあるかと思います。バリアフリー化も非常に大切な課題であり、土木部門と連携して対応していきたいと考えていますので、こちらについても後ほど詳しい場所をお聞かせください。

Q 市民

まず、指定ごみ袋の導入について、なぜ柏の真似をしてやらないといけないのかと、市長にも質問状を出しましたが納得のいく回答ではありませんでした。ごみの減量の大切さはわかりますが、なぜ指定袋を導入すると減量されるのか全くわかりません。

最近の広報で、ごみが増えて焼却炉いっぱいなのでごみを減らしてくださいという記事を見ましたが、人口が増えているのだから当たり前です。発展していることはいいことですが、それに伴いごみが増えるのは当然であり、それを調整してやるのが市政ではないでしょうか。

焼却炉をつくった時点で、将来の展望が足りなかったのかと思いますが、

人口流入を抑制するか、ごみを減らすかのどちらかではないでしょうか。

以前は庭の大きな家などではごみを埋めているケースもありましたが、最近はそのいきません。

最近のコロナ禍でデリバリーによるプラごみも増えていきますし、テレワークで家にいる時間が多いのでごみの持ち込みも増えているという記事もありましたが、大きな問題として、これだけ人口が増えているのだから、それを考えて対策をとるのが市政であり、あなたたちの仕事です。

2点目は図書館についてです。

冬休み期間で、子どもたちは休みなのに、図書館は年末年始の約1週間閉まってしまいます。

図書館は民間に委託しているのだから、柔軟に対応できないのでしょうか。

スーパーなどは元旦からやっているのを検討いただきたいと思います。

3点目は救急車の音についてです。

福祉施設が自宅の近くにあり、朝から晩まで何回も救急車が通るのですが、その騒音でおかしくなってしまうそうです。

住宅街ではボリュームを落とすとか、危険が少ないときは静かに通るといような調整などはできないものではないでしょうか。

A 市（環境部長）

指定ごみ袋は柏を真似たということではなく、流山市として必要性があると考え、導入を提案しました。

市では5種類にごみを分類していますが、今回の指定ごみ袋は、特に量の多い燃やすごみと容器包装プラスチックごみが対象であり、わかりやすく出していただけ環境を作りたいという思いで、導入を提案しています。

特に容器包装プラスチックは、不要に燃やすのではなく、リサイクルに回していくことで焼却炉を維持していきたいと考えています。

また、広報ながれやま12月11日号の1面で皆さまにごみの減量化をお願いしたところですが、これは記事をよく読んでいただけると分かるのですが、人口が増加したことにより処理が追い付かなくなったということではなく、3基ある焼却炉のうちの1基に不具合が発生し、長期の修理に入っていることから、ごみ収集に滞りが出ることのないよう、ごみが増える年末年始に向けて、減量のお願いをしたものとなります。

Q 市民

汚職があったからではないのか。

A 市（環境部長）

そのようなことは一切ありません。

流山市の焼却炉は、ガス化熔融炉といってデリケートなものであり、排気ガスが非常に少ないものです。

最終処分場をもたない流山では、そのようなデリケートな設備を使ってでも、きれいな排気ができるようにしなくてははいけませんので、決して汚職があったということはありません。

A 市（教育長）

今年度、学校は12月24日～1月6日までが冬休みとなっており、図書館は12月29日から1月3日までが休館日となっています。図書館で本を借りて家で読むということが一番いいのかなと思いますが、図書館は子どもにとっての居場所になっている面がありますので、その辺りの日程調整がうまくできるかどうか、持ち帰り確認させていただきます。

A 市（副市長）

本日は消防長が不在のため副市長の私より救急車両についてご案内させていただきます。

沿道の皆さまにはご迷惑をおかけしていますが、パトカーも含め緊急車両は、法令でサイレンを鳴らすことが義務付けられている場面があります。

救急車は理由なくサイレンを鳴らしているのではなく、1分1秒でも早く救命したいということで出動しております。人口の増加に伴い、件数も増えていますが、どうかご理解をお願いいたします。

Q 市民

西初石1丁目は、第一種低層住居専用地域であり、42条2項道路を挟んで西側の上新宿が広大な市街化調整区域です。

市街化調整区域は、都市計画法第34条を除き開発ができないはずですが、ここ数年の間に、資材置場などが畑の名目などでなし崩しに開発されています。

開発面積が小さくても開発行為の届け出が必要と記憶していますが、届けは出ているのでしょうか。出ているとすれば、開発に関する情報を記載した看板を出してもらいたいです。

また、安全な施工と、週末は振動の出る作業をしないように指導してほしい、これらのことについて調査と住民説明会をお願いしたいです。

すでに開発されたところでは、産業廃棄物の中間処理場のようなものが稼働しています。なし崩し的に開発を行っていくのであれば、いっそのこと市街化調整区域を解除し、事情に則した都市計画を行ったほうがいいのではないかと思います。

開発行為を行うと道路を作ることになりますが、問題は排水がない道路が増えて、集中豪雨があった際など、将来的に問題になるのではないかと心配です。

調整区域を大々的に見直してほしいと思います。

A 市（まちづくり推進部長）

ご質問のとおり、市街化調整区域は原則建物を建てることができません。都市計画法第34条で例外的に開発を許可する要件が示されていますが、一定の条件をクリアしないと建てられません。

資材置き場ができているなどのお話がありましたが、建物が建たない場合は、開発行為に該当しないため、土地造成扱いとなります。

ただ、市街化調整区域は農地の場合が多いので、その場合は農地転用手続きを踏まないと次のステップに進めません。これは農業委員会の領分もありますが、このような農地転用や開発許可については、すべて個別に判断しており、個別に指導し、整備基準に基づいて許可を出しています。お話しいただいたものは許可外のものという可能性もありますので、後ほど詳しい場所をお聞かせいただければ調査させていただきたいと思います。

Q 市民

調整区域は1000平米以下でも申請しなければならないはずですが。しっかり判断してほしいと思います。

A 市（まちづくり推進部長）

まず確認させていただきますので、後ほど詳しい場所をお聞かせください。

Q 市民

運河の土手に、数にして200～250本の桜並木があります。市政40周年で20本ほど植えたと思いますが、それ以降は植えていません。国土交通省の管轄であり、市としては努力すると伺っていますが、利根川から江戸川まで、桜を植えられないでしょうか。落ち葉の問題については市民に協力を求めているだけでも構いません。

江戸川の土手も、以前はモグラが出るから駄目だという意見もありましたが、現在は菜の花も名物になっています。

また、運河橋と焼却炉の煙突をライトアップしてはどうでしょうか。特に焼却炉については難しい問題があるかと思いますが、これからクリスマスシーズンですから、イルミネーションなどもいいと思います。コストもかかる問題なので、ぜひ皆さまで議論していただきたいと思います。

また、少子化の流れで子どもを大切にしている中で、高齢者にはどういう施策を行っているのか、市としてもっと発信してほしいと思います。

東深井地区には市の温浴施設があり、500円で一か月入り放題と、こんな素晴らしい施設があるのかと今でも驚いております。こういうものをたくさん作り、老人と子どもに優しいまちづくりを引き続きお願いします。

最後に、テレビで市長がおっしゃっていたかと思いますが、二子玉川に負けないとかでなく、二子玉川を尊敬しながら、市独自に発展していくという意気込みで市政運営をお願いします。

A 市（まちづくり推進部長）

運河水辺公園や眺望の丘、運河散策の森、江戸川近くの運河河口公園には、桜を植栽させていただいております。

夏頃に地元の自治会からも同様の要望をいただいております。植樹には国土交通省の占有許可が必要となることから、同省と協議を行い、現在は占有許可の申請を行っています。許可がほしい、植樹をしていきたいと考えています。

ただ、堤防の外側の余裕のある部分への植樹となりますので、隣接する住民の方の協力も必要であり、その辺りは調整しながら進めていきたいと思っています。

また、公園などの落ち葉は市でも回収しているのですが、回収が追い付いていない状況です。みどりの課にご一報いただければ、回収に伺いますが、

近隣の方にも落ち葉回収にご協力いただければ幸いです。

A 市（健康福祉部長）

流山市では若い世代が増えているため高齢化率は低下していますが、高齢者の総数は年々増えている状態であり、特に後期高齢者といわれる75歳以上の方が増えています。

人生100年時代と言われる中で、いつまでも地域で暮らし続けるために、生きがいと健康の維持ができるよう、高齢者ふれあいの家を27か所に作っています。様々な世代と交流していただきながら健康づくりに取り組んでいただいているグループも市内に40グループほどあります。

地道な努力かもしれませんが、高齢者の方が地域で元気に過ごしていただけるよう力を尽くしているところです。

しかしながら、ご指摘のとおり発信力については市としても課題として捉えており、高齢者向けの施策の情報が皆さまに届くように工夫してまいりたいと思いますので、これからもご意見をお寄せいただければ幸いです。

A 市（市長）

運河橋のライトアップは素敵なアイデアだと思います。

新川屋さんのブラッスリー新川のあたりをライトアップする以前に、全国的に有名な方に大々的なライトアップの依頼を検討しましたが、費用が桁違いにかかってしまうこと判明し、試行錯誤したうえで、現在のライトアップを行うことになった経緯があります。

やるならば、さっと見て終わるようなものではなく、しっかり運河に滞在していただけるようなものにしたいと思いますので、今後、できるのかできないのか、予算等も調整しながらツーリズムの観点で研究していきたいと思っています。

また、「二子玉川」というフレーズは、テレビのプロデューサーが、視聴率が上がると思い使っているのだと思うのですが、「流山市を二子玉川のようにしたい」とは市長として一度も言ったことがありません。

二子玉川は駅を降りてすぐ国道246号線で分断されているので、生活する街としてはおたかの森のほうが優れていると思っています。

いずれにしても、競争することは悪いことではないですが、流山は流山ですので、良いところは伸ばし、悪いところは直していくという方向でしっか

りとやっていきたいと思います。

おおたかの森 S. C. の事業者が、二子玉川の商業施設と同じなので比較されやすいですが、私がテレビで「流山市は東の二子玉川ではない」と発言していますように、これからも流山市としてしっかりと特徴のある街づくりをしてまいりたいと思います。

Q 市民

最近の発展ぶりに驚いていますが、木の伐採も多く、嬉しさ半分、言い方が悪いかもしれませんが、もう半分は吐き気がするほど残念に感じたことがあります。

先日のアド街ック天国でも流山本町の昔の街並みが出ていましたが、運河が取り上げられないのはなぜでしょうか。

私は運河のすぐ近くに住んでおり、流山市を愛しているので、すごく期待しており、関西の友人もテレビを見てくれましたが運河は映りませんでした。

また、運河駅前の道路はどうにかならないでしょうか。事故が多く、亡くなった方もいます。

運河の橋を越えて野田のほうは県道が立派ですが、流山市側は整備が追い付いていないと思いますし、踏切のあたりも広がらないものでしょうか。

運河を多くの人に知ってほしいと思う一方で、あまり大々的に宣伝をしてほしくないという気持ちもありますが、市としてはどうお考えなのでしょうか。

(他の市民より、テレビ側の取材であり、市が宣伝しているわけではないと思うという意見あり)

A 市（市長）

他の方がご説明いただきましたように、どのテレビ番組も調査隊がしっかりしていて、市に何か問い合わせが入ってくるということがありません。

こちらから駄目元で情報を送っても、全く反応はないので、番組のほうでシナリオを考え、それに沿った場所を取材していくということです。

市では、市内のどこかで取材があった後に、市民の方などから「テレビの取材を受けたよ」という声が少しずつ集まってきて、「このようなテーマでシナリオを組んでいるのかな」と予想することはできますが、市が協力して作るとか、そういったことは全くありません。

先日、「昔は運河に引っ越してきた理由がわからなかったが、今では自信をもって運河に住んでいると言える」とのお手紙もいただいております。運河の環境は素晴らしいと考えていますが、テレビに出るかどうかについては、市としてはいかんともし難いのが現状です。

先ほどのライトアップや桜の植樹など進めば、遅かれ早かれ注目されると思うので、楽しみにしておいていただければと思います。

なお、ラジオであれば、市が話題を投げかけると警戒されてしまうのですが、住民である皆さまが投稿することで取り上げられることがありますので、そういったところに発信していただけると、市としても嬉しく思います。

A 市（土木部長）

運河駅前や南丁字路が狭隘であるというご指摘はごもっともだと考えています。

こちらは元々千葉県道であり、県も拡幅に尽力してきたところですが、現在は松戸流山線を先行して整備を進めているという経緯があります。

県道を大きくすることによって、そちらに交通量を振り向け、今の運河駅前の道路を一般生活道路レベルの交通量に抑えるよう計画しています。

また、土地のことにつきましては、東武鉄道が所有しており、市の一存では広くできないという現状があります。

今まで以上に交通安全への啓発もしてまいりますので、ご不安な点がありましたら個別にお知らせいただければ対策をとってまいります。

Q 市民

コロナが継続しており、この一か月は感染が出ていませんが、ここで気を緩めると一気に広がってしまうので、健常者だけではなく、障害者にも配慮した対応をいただければ幸いです。

広報ながれやま4月1日号の事業特集号では、その年度に取り組む主な事業を紹介していますが、各部長はここに掲載した事業が達成できたか精査してもらいたいと思います。以前は情報政策・改革改善課が所管する「部局長の仕事と目標」で中間報告を行っていましたが、今年より中間報告が無くなってしまい残念に思います。

今年流山でも強い地震がありましたが、台風や突風などの災害もありますので、早めに防災危機管理課の審議会を開いて対応にあたってください。

コロナの時も何度も伝えましたが、高齢者だけでなく障害者の身にもなって市政運営を行ってほしいと思います。

陳情で市長副市長の歳費を削減してくれと言いましたが駄目でしたね。市議会議員も含め、ぜひやってもらいたいと思います。

先日発生したセクシャルハラスメントについても、民間企業ならクビであり、就業規則が甘いと思います。

また、不登校問題やいじめについてもしっかりと対応してほしいです。

(市への要望として承らせていただきました)

Q 市民

東京理科大学の薬学部が2025年に葛飾キャンパスに移転するそうですが、流山市の現状認識などについて伺いたいです。東洋学園大学の撤退後の跡地活用のように、今から考えておいたほうがいいのではないのでしょうか。

冒頭の市政報告にあったプログラミング教育のお話ですが、生徒のIT化は進んでいますが、教師はまだまだ黒板を使っておりアナログだなど思い、こういったところに違和感を覚えることは大事なことはないかと思いました。改善してほしいと思います。

A 市（市長）

プログラミング教育についても東京理科大学に関わっていただいております、理科大学の先生と学生の方々にプログラム作り、実際の場面で学生さんに教えてもらっており、プログラミングを理解しない方が教えるということはありませんのでご安心いただければと思います。

また、今回の薬学部の移転は決定事項であると伺っていますが、市では、同様の事が起こり得るのか、何年も前から定期的に確認を行っております。野田キャンパスは大学院の研究機関としては非常に力が入っており、今わかる範囲では、移転は薬学部のみであり、他については現状を維持していく予定とのことです。いわゆる学部の学生の教育は金町や飯田橋で行い、研究については、引き続き野田キャンパスで力を入れていくということをお伺いします。

Q 市民

コロナワクチンについて、1週間前に保健センターに電話し確認したところ、2回目の接種から8か月の期間を空けるという姿勢を遵守して崩さないとのことでした。

オミクロン株が流行り、大変なことになりそうな中、昨日、岸田総理大臣がワクチンの前倒しを表明しましたが、今後の流山市の対応についてお聞きしたいです。

前回のワクチン接種では、流山市は開始が遅れたため、3回目は早めに対策すべきではないかと思えます。

人口透析や癌を患っている方は死亡率が高齢者並みに高くなるため、医師会とも相談して、リスクの高い方への接種を医師の判断のもと、どんどん進めるべきです。

健康福祉部長は以前、コロナ対策の目標は「流山から死者を出さないこと」だと仰っていました。

これは命にかかわる問題ですので、ぜひお願いします。

A 市（健康福祉部）

ご指摘のとおり、昨日、岸田総理大臣がワクチンの前倒しを表明しました。

詳細な進め方については明日以降に分かり次第、対応を進めてまいります。

しかしながら、国は2月以降、8か月から前倒しして、前回の接種から7か月経過した高齢者への接種を表明しましたが、ワクチンの供給ができるのかどうかについては明言していないことについては気を付けなければいけないと考えています。

会場を設け、予約も受け付けている中、ワクチンが供給されずに接種ができないということが起これば大混乱となりますので、国、県としっかり情報を共有し、計画的に進める必要があります。

いずれにしても、全国的なルールに基づき、最善を尽くした対応を行ってまいります。

また、基礎疾患のある方については1回目の接種でも優先的に接種できるよう対応してまいりました。3回目の接種についても一般の方よりも早く接種されることとなりますので、ご理解いただければと思います。

Q 市民

国はワクチンをすでに3000万人分用意していると言っています。

姉妹都市の相馬市では、6月に子どもまで接種が完了しています。

1回目の接種が遅れたのは国の責任ではなく、市の責任です。

命の問題であるので、前回の失敗したことを考えて真剣に取り組んでください。

Q 市民

南自治会の会長を務めています。

焼却場について、今思えば、当初の計画通りの規模で建設しておけばこのような問題も発生しなかったのではないかと思います。

焼却灰の最終処分場について、熊谷知事が千葉市長の時は反対できていましたが、現在は県知事の立場であり、県全体として見れば反対できないのではないかと思いますので、千葉県市長会長である市長から強く言っていただきたいと思います。

2点目に、私は商工会議所の常議員をやっているのですが、先日より開始された移動スーパーについては反対するわけではなく、良い取り組みだと思っていますが、100メートル以内に商店街があるところが駐車場所になっているところがあります。中には八百屋が無くなり、代わりに酒屋が野菜を仕入れて努力しているような地域もあります。少しでも多く流山市に税金を落としてもらおうと夜遅くまで頑張ってくれている人もいます。

そんな中、商工会議所などと連携を図れていなかったことが残念でならず、縦割り行政の弊害だと思います。

例えば、たばこの販売は、移動販売は基本出来ませんが、事前に注文をいただくと販売できるようになります。すると、この移動スーパーは柏市の店舗なので、柏市に税金が落ちてしまいます。

3点目に、かつて私も商工会議所で運河の桜祭りに携わっていました。

以前のタウンミーティングで、運河にオートキャンプ場を作る話が挙がっているということについて質問させていただきましたが、運河沿いにある老朽化した国交省の河川事務所を取り壊し、後藤純男さんの美術館を作ってみてはどうかと思います。

A 市（市長）

下花輪に保管している焼却灰の件について、熊谷知事に要請したお話についてということで認識しましたが、以前の森田知事の時も、千葉市長が反対しました。

これは現在、知事が決定するというよりも、千葉市長である神谷市長が判断することになると思います。

熊谷知事に説明し要請することは可能であり、千葉市としての意見はあると思いますが、流山市としての意見は申し上げてまいりたいと思います。

A 市（環境部長）

焼却灰については、環境省に周辺市町村と意見を伝えており、引き続き解決に向けて努力してまいります。

広報ながれやま12月11日号の1面は、人口増加によるものではなく、焼却炉に不具合が生じたため、年末年始に向けごみの排出を控えていただきたいという趣旨で掲載いたしました。

焼却炉の故障は市の責任であり、それに対する対応を市民の皆さまにご協力いただく形をとるということについて、市としても慎重に検討した末に、当該記事を掲載させていただきました。何卒、ご理解いただければと思います。

A 市（健康福祉部長）

移動スーパーが柏支店から来ていることについて、移動スーパーを行っている会社は市内にも店舗があるので、この店舗の所属等にできないかということ、引き続き調整してまいりたいと思っています。

この移動スーパーは、まずチェーン店からお話をいただき、市としてできる範囲での協力をしてきたものであり、買い物が困難な高齢者が増加している地域の不便を解消し、また、人とのつながりを作ることも目的に、12月8日からスタートしたものととなります。

駐車場所が他の店舗等と近いというご指摘につきましては、地域の皆さまのご意見を伺いつつ、既存商店とのバランスも保ちつつ継続していけるよう努めてまいりたいと思います。

Q 市民

指定ごみ袋も扱えるように高齢者支援課に伝えましたが、考えていないと言われました。

A 市（健康福祉部長）

併せて検討させていただければと思います。

A 市（副市長）

後藤純男美術館の話がありましたが、あの国交省の出張所は、空き部分を市が国交省から使用貸借し、利根運河交流館としてNPO法人に業務委託している状態です。財産権が違うので、せっかくのご要望ですが、実現については別の場所で検討させていただきたいと思います。